

- 水管理：中干し後は、落水期間が長めの間断かん水、幼穂形成期以降は飽水管理を行いましょ。
- 病虫害防除：化学合成農薬の成分使用回数は12以内となるよう留意し、コシヒカリに準じて実施しましょ。

生育状況

近年と比べ草丈は並み、 m^2 茎数は少なく、葉色は並となっています。

表 水稻の生育状況（7月2日調査）

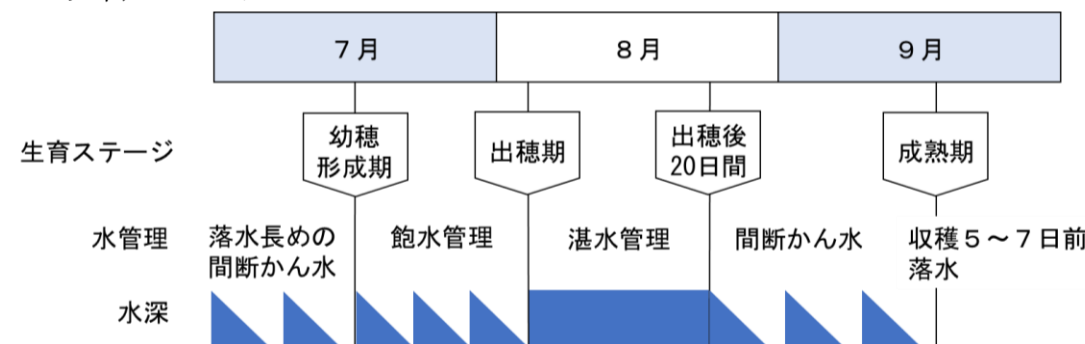
	田植日	草丈 cm	茎数		葉齢	葉色		幼穂 形成期
	月/日		本/株	本/ m^2		葉色	SPAD	
高岡（2ほ場）	5/16	49.3	25.1	502	10.6	4.3	39.5	(7/14)
県平均	5/17	54.5	28.4	620	10.9	4.3	40.2	(7/12)
近年（高岡）	5/13	49.6	27.0	573	10.6	4.4	39.7	7/12

※近年値はH29からR5の値。幼穂形成期は予側値

水管理

- (1) 中干し後～幼穂形成期：富富富は葉色がやや濃く推移することから、落水期間が長めの間断かん水を行いましょ。
- (2) 幼穂形成期～出穂期：稲体や根の健全化のため飽水管理を行いましょ。
- (3) 出穂期から20日間：胴割米の発生を防ぐため、湛水管理を行いましょ。

<水管理のイメージ>



穂肥

- 【全量基肥】：原則、追加穂肥は施用しない。ただし、幼穂形成期の14日後の葉色が薄い（群落葉色4.2未満）場合は、出穂3日前（走り穂の頃）までに7kg/10a程度を施用しましょ。
- 【分施肥系】：穂肥の1回目を幼穂形成期の7日後頃（幼穂長15mm程度）に5～7kg/10aを施用し、2回目を1回目の7日後に10kg/10aを施用しましょ。

病虫害防除

- (1) 化学合成農薬の成分使用回数は12以内を遵守しましょ。
- (2) カメムシの対策として、畦畔・雑草地などの草刈りを行い、その後も草の穂が出ないように管理しましょ。

○ご不明な点は JA 高岡担当農指導員 または 高岡農林振興センター 高岡班（26-8477）までお尋ねください。